

## つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとの発行を予定しております。皆様からのご意見やご要望、ご提案など、是非、本センターまでお寄せください。お待ちしております。

## 職種別特集(第2弾) 【薬剤師】

秋田県薬剤師会秋田中央支部 岩間副支部長から、薬剤師の業務について伺いました



岩間 雄一氏

株式会社いわま薬局 代表取締役  
秋田県薬剤師会秋田中央支部 副支部長  
趣味：ドライブ、飲食店巡り  
座右の銘：全ての人に優しくあれ

「地域の薬剤師、薬局を  
活用していますか？」

～健康相談窓口としての  
役割があります！

今回のインタビューー

## 川端 洋祐氏

サービス付き高齢者向け住宅みんなのまち  
副施設長  
秋田県中央地区介護支援専門員協会 事務局  
趣味：釣り  
座右の銘：試練は乗り越えられない人に襲いかかりはしない



## 処方箋がなくても相談ができる！

ケアマネジャーの川端洋祐氏が、岩間雄一氏から薬剤師の業務と薬局の役割についてお話を伺いました。

## 薬剤師のお仕事

**川端氏** 岩間先生は薬局の他、介護施設等複数の事業所を経営されていますが、今日は薬剤師の業務と薬局の役割についてお話を伺えればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。まずは、薬剤師の仕事内容について教えてもらえますか？

**岩間氏** 薬剤師の仕事として、皆さんが一番目にするのは処方箋に関するところだと思います。薬の説明・与薬、残薬の確認、聞き取りをしながら薬の効果や副作用についての確認、他院・他科受診の確認、併用薬の確認等があります。また一般用医薬品も含めて薬に関わる事や衛生材料全般の相談、健康相談、場合によってはバイタルのチェックや食事の相談、など多岐に渡ります。

**川端氏** この度の新型コロナウイルス感染予防の対策として、岩間先生の薬局で変化した部分はありますか？

**岩間氏** 各薬局はそれぞれ3密の回避、マスクや仕切り板の使用、検温、手指消毒の徹底、定期的な換気・消毒をおこなっています。発熱、咳、感染症の疑いのある患者さんには薬局に入る前に電話をしていただき、薬剤師側でもフェイスシールドや防護服等を使用、私たち医療提供施設が感染源にならな

いように対策を徹底しています。

**川端氏** 感染源にならないようにという部分は、私たち関係者がみんな心配しているところですよ。ありがとうございます。

## 薬剤師が関わるメリットは

**川端氏** ところで、薬剤師は退院時カンファレンスやサービス担当者会議など、多職種が集まる場に来ることが少ないですよ。やはり業務についていると難しいのでしょうか。

**岩間氏** そもそも、会議に呼ばれる事が少ないのです。私たち薬剤師会でも、ケアマネが開くサービス担当者会議・退院時共同指導等には積極的に参加しましょうと話をしてはいるのですが、このご時世ですので患者宅や病院等に集まるのが難しいのが現状です。今後はリモートで参加するという手法も考えられます。業務の関係上対応できる時間帯は薬局によって異なりますので、その相談も含め、是非声をかけて欲しいです。

**川端氏** 例えば私はこれまで訪問看護サービスを利用している場合、患者さんやご家族、ケアマネは、薬の事を訪問看護師に相談していました。患者さんが退院するタイミングで訪問看護師に関わり始めてもらうことが多く、私たちも頼ってしまいます。本来であれ

ばかりつけの薬局薬剤師に相談すべきなのでしょうね。

**岩間氏** 薬に関する相談はぜひ薬剤師にさせていただきたいです。その点からも薬剤師が退院時から関わりを持つことが理想的です。関わる最大のメリットは、薬に関する専門の知識と視点を持っていることです。薬の飲み方など他の医療職でも説明することはできませんが、その効果や副作用などへは専門の薬剤師の方が適切に対応できます。例えば患者さんが転倒した場合、介護職は筋力低下を疑うかも知れませんが、薬剤師は薬の副作用を疑います。このように視点が増えれば支援の幅が広がりますし、リスクへの対応も早くなります。ケアマネから得た情報を医師に伝えたことで、薬の調整につながったケースも多くあります。やはり専門的な立場からの気づきや働きかけは重要だと思います。

**川端氏** 退院時カンファレンスなど初期の段階から加わってもらえると、その後の相談がしやすくなりそうですね。

**岩間氏** その通りだと思います。その前に、入院が決まった時点でかかりつけ薬局などに相談することをお勧めします。患者さんが入院前に「飲んでい

薬剤師が仕分けているようですが、先に普段かかっている薬局に相談して、残薬の確認や整理をしてもらうのもいいと思います。

**川端氏** そのような相談をしてもいいのですか？

**岩間氏** もちろんです。普段かかっている地域の薬局であれば受診歴などの情報も記録しているため、患者さんの薬を整理しつつ病院にその情報を提供することで、病院側も正しい情報を得られ助かると思います。入院前に対応した薬局がそのまま患者さんの退院時カンファレンスに出れば、多職種間で患者さんの情報を共有でき、より良い支援に結びつくと思います。

**川端氏** かかりつけの薬局を持つメリットと言えますね。ショートステイに行く前にも残薬が見つかることがあります。その時も整理をお願いできるのでしょうか。

**岩間氏** 大丈夫です。残薬を見つけた場合、自分で何とかしようとせず、まずは薬剤師に相談してください。私たちが患者さんの自宅に行くことも含め検討します。ただ整理するのに少し時間がかかる場合もありますので、分かっている場合は事前に声をかけてもらえると助かります。

**川端氏** 会議への出席依頼も含め、薬剤師へはどのように相談を持ちかけ

いいですか？

**岩間氏** もし相談がある場合は事前に電話などで連絡をもらえると助かります。業務の片手間ではなく時間を設けて話がしたいです。相談場所は薬局でも患者宅でも構いません。相談はケアマネを通してでもいいですし、患者さんやそのご家族、医療介護関係者のどなたからでももちろんお受けします。

### 地域の健康相談窓口としての役割

**川端氏** 相談できるのは在宅療養をしている方に限りますか？

**岩間氏** いいえ、どなたでも相談していただけます。そもそも地域の薬局には、処方箋の有無にかかわらず薬や健康相談全般を受ける役割があります。昔、地域の方は病院に行く前に薬局に行っていました。薬剤師は症状に合わせて市販薬を紹介し「これを飲んで効果なければ病院に行った方がいいよ」と対応するなど、トリアージ的な機能があったぐらいです。

**川端氏** 薬局は、医療機関にかかった後に処方箋を持って行く所、というイメージがありました。

**岩間氏** そのように認識している方が多いのも事実です。その認識・イメージを変えることが薬局・薬剤師には必要です。最近は地域の方で薬局を有効活用している方も増えてきました電話

をくれたり、薬局に立ち寄りたりして色々な相談事をしてくれます。それが患者さんの支援に繋がることもたくさんあります。薬局はコンビニより多いと言われていて、地域に必ずあります。これを活用しないのはもったいないことです。

**川端氏** 地域の健康相談窓口として活用できますね。それを専門職が活用しないのは逆におかしな話です。まずはケアマネから積極的に声をかけて行かなければいけないですね。では最後になりますが、医療介護関係者に伝えたいことはありますか？

**岩間氏** 薬のこと、健康のこと、地域の薬剤師に気軽に相談して欲しいです。薬局という枠にとらわれなくても話しやすい薬剤師と交流を持ち、何でも相談するのもひとつの手段だと考えます。つながる条件はやはり顔が見えているかどうかは鍵でしょうか。患者さんへの関わりを通してつながる方法もあれば、研修会などに参加してつながる方法もあります。職能団体に所属していると研修などの情報を得られやすいので活用するのもいいと思います。

**川端氏** 岩間先生、今日はありがとうございました。

**岩間氏** ありがとうございます。

### インタビューの感想



今回インタビューは新型コロナウイルス感染対策として、マスクの着用・アクリル板を使用し飛沫防止、換気等に配慮して行いました。

まだまだ薬剤師の認知度は低いです。今後、私達薬剤師は外に向けてどんどん発信していく事が必要だと改めて感じました。

各職種とのつながりの大切さと、複数の視点で検討することの重要性を再確認できました。ありがとうございました。

### お知らせ

南部圏域の地域包括ケアを考える会「なんケアの会」が開催されます

【申し込み、問合せ先】  
御野場病院 戸津  
☎018-839-6141

掲示した研修の詳細は、連携センターホームページの「研修情報」からご確認ください。

### 資源調査（更新）にご協力ください

地域の医療・介護資源情報の充実を図るため、ホームページ掲載情報の更新および医療・介護資源の追加調査を実施しております。調査への回答は「医療・介護資源情報提供書」をFAX(①)、本センターホームページから(②)の2通りで受け付けております。

(<http://www.acma.or.jp/renkei/>)



- ①「医療・介護資源情報提供書」はここからダウンロードできます。
- ②ホームページから回答する場合はログイン後、この調査フォームからすすんでください。



## 秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝祭日を除く)午前9時～午後5時  
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)

TEL : 018-827-3636 FAX : 018-827-3614

E-mail [renkei-center@acma.or.jp](mailto:renkei-center@acma.or.jp)

URL <http://www.acma.or.jp/renkei/>



### 編集後記

取材前に行うインタビューの方との打合せでは、掲載内容の枠を(少しだけ)出て、様々な情報交換をさせていただいています。ここから次の企画のヒントを得ることもあり、私もつながることの大切さを実感しています。熊谷

